

2016年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 10月号

運動会

10月はスポーツに最適の季節です。何年か前までは、10月の定番といえば運動会でした。

しかし、今は小学校の運動会が春に開催される地域が多くなっているようです。

生徒にとっては進級したばかりでクラスメイトとのきずながまだ深まっていない時期ですので、一体感が必要となる競技の際にまとまりきれないというデメリットがありますが、それでも春に開催する小学校が多くなったいちばんの理由は「熱中症対策」のようです。

秋開催の場合、運動会の練習が夏の暑さが厳しい時期から始まるため、まだ涼しい時期から練習を行うことができる、春に開催される地域が多くなったようです。

また「行事の分散化」を目的としている場合もあるようです。秋は運動会以外にも文化祭や合唱コンクール、また中学生であれば受験に向けての勉強の追い込みの時期にも重なり、行事には練習・準備が必要で、その中で授業時間を確保するため、春に開催されるケースが増えているようです。

運動会の開催が春になるのは時代の流れかもしれませんね。秋であっても春であっても、応援する保護者の方や実際に競技を行う子どもたちにとって思い出に残る運動会であればいいですね。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“子どものやる気は、「できること」でわいてくる”

子どもにいくら勉強を「やれ！やれ！」といったところで、意欲がわかないことにはどうにもならないというのは、少なからず耳にすることです。

しかし、だからといって、「勉強したらどこそこへ連れて行ってあげる」といったような動機づけは考えものです。これは勉強そのものへの意欲ではなく、外出することに対する意欲であり、勉強は形だけのものになりかねず、真に学力をつけることはできないでしょう。そんな手段にうったえるより、「できた！」という実感を子どもにもたせることが肝心です。そのためには「できる」問題を与え続けなければならないのです。そうすれば、しだいに勉強が好きになっていきます。また勉強が好きになれば、それまでより少し難しいことも徐々にできるようになるのです。

「できる→好き→できる→もっとやりたい→・・・」という好循環をつくりだしてあげることこそ、子どもの「やる気」をひき出すもっとも効果のあるやり方なのです。

11月無料体験のご案内

保護者の皆様へ

平素は公文式学習にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。さて、公文式教室では、下記の通り「11月無料体験学習」を実施いたします。

公文式学習の大きな目的は自分から学習する力を育てること。「自分でできた！」の体験は子どもたちに大きな自信を与えてくれます。新しい教科にチャレンジして、ぜひ得意な教科を増やしてください。

入会を検討されているご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひ無料体験学習にご参加ください。

また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いです。ともに学習する存在は子どもたちにとって大きな励みとなります。

★11月無料体験学習のご案内★

学習期間：11月16日(水)～11月30日(水)
期間中、2週間で計4回、公文式学習を体験していただけます。
費用は無料ですので、お気軽にご参加ください。

2016年 10月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10 <small>体育の日</small>	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

本市場教室 日○

横割教室 日△

～お子さんの成績アップのために～

嫌みが出るのは…

「また、同じところで間違えてる…。ホント誰に似たのか、頭悪いわね…」
「これじゃ、試験間に間に合わなくなって、受からないわよ。いいのそれで！ 困るでしょ！」
親が子どもの勉強を見ているとき、こんな言葉が口をついて出てしまうことがないでしょうか。
我が子だと、つい、けなしたり、バカにしたり、嫌み言ったりしてしまいがちです。
それは、大人の側に余裕がないからなのです。

子どもは、大人が考えているよりもさらに、繰り返し、繰り返し、間違いを克服しながら学んでゆくのです。
もちろん、すぐに理解してしまう子どものいるのですが、『分かった』ということと、『間違えずに正確に早く解ける』ことは、別のことです。分かって、訓練をしなければ、ミスをします。訓練をしなければ、早く解けるようにもなりません。

ですから、まずは親（大人）が、「子どもは、繰り返しの学習が必要不可欠なのだ」ということを強く認識しておく必要があります。

「昨日やったところなのに、もう忘れてる！」
当たり前です。子どもはすぐに忘れるのです。だから繰り返し学習することが必要なのです。

「さっき間違えたところで、また間違えている！」
当たり前です。定着するには、時間がかかります。
定着すれば、もう間違えませんが、しかし、まったく新しいことを学んでいるのですから、時間をかけて練習させなければなりません。

本当は、試験に間に合わなくなって受からないと困るのは、子どもではなくて、親（大人）の方なのではありませんか。
受験するといった手前、合格しないと、世間体が悪いから、困るではありませんか。
大人側の論理を、子どもの学習環境にねじ込んではいけません。自らの心の余裕のなさが、言葉として出て、子どもに要らぬ毒素を振りまいているのです。

「繰り返し練習すれば、必ずできるようになるから、間違えてもやり直そうよ。あなたは絶対にできるようになるから、一緒に解いてゆこうよ。次は同じミスをしないように気をつけようね…」
こうした暖かい言葉は、子どもを安心させ、子どもの心を落ち着かせます。

「同じ間違えを繰り返すなんて悔しい」と、子どもが自分自身で思うようになるのは、大人の嫌みの言葉からでは決してないのです。

～上達の秘訣は「おもしろい」～

どのようなことであっても、人は「おもしろい」と思えるものに対しては熱心に努力するので、上達・精通が早いものです。

実は、これは、「おもしろい」がモチベーションになるという脳の性質なのです。
例えばバレエを習って好きになったら、毎日練習したり、舞台を見に行ったり、インターネットなどから知識を仕入れたりして、よりバレエが上手になり、詳しくなっていくます。ちょっとわかった（おもしろい）、もっと知りたい、もっとわかった（もっとおもしろい）と、知識が増えるにつれて、「知りたい、わかった（おもしろい）、もっと知りたい」のスパイラルが始まるのです。

同じことが勉強でもいえます。まずは勉強がおもしろいと思わせることからスタートしてみましよう。勉強がおもしろい、やりたいと思えたら、やりなさいと言われなくても、自分から進んで勉強するようになるものです。言うのは簡単ですが、実際には難しいですよ。子どもが興味をもったことをきっかけにしてはどうでしょうか。例えば、雨が降る仕組みに興味を示したら、図書館で詳しく調べてみるとか、博物館へ行ってみるなど、親子で楽しく興味を広げてみてはいかがでしょうか。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。

10月分の会費引き落としは9月28日(水)です。よろしく願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。